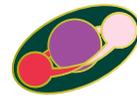


la santé 健康

ラ・サnte



vol.161
令和6年1月20日

2024 新春

編集・発行：社会医療法人玄真堂
広報委員会：松丸由香、山口江梨子
〒871-0012 中津市宮夫14-1
TEL0979-24-0464
<http://kawashimahp.jp>



『耶馬の景』川島 照代 画

理念

- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント（説明・同意・納得）を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。

新年のごあいさつ

社会医療法人 玄真堂 川崙整形外科病院

院長 川崙 眞之



新年、明けましておめでとうございます。平素よりご支援・ご高配をいただき誠にありがとうございます。

2019年末、中国に端を発し、世界中を混乱させたCOVID-19ですが、日本では昨年5月に5類感染症に移行し、世間もコロナ禍前の日常を取り戻しつつあるようです。一方、当院では昨年末に再びクラスターを経験し、新型コロナウイルスの感染力の強さを改めて目の当たりにして、油断することなく感染対策を継続していくことの重要性を再認識したところであります。

昨年は入院中の新型コロナ感染者さんにおいてDPC制度等では包括支払い（全額

病院負担）であった高額なコロナ治療薬も、その後、当院からの申し入れが功を奏したかは定かではありませんが、出来高払いに変更されるなど、少しずつ軌道修正されているようではあります。一方、介護老人保健施設等においては新型コロナウイルス感染者が発生しても基本的には施設内で療養することが要請される現状で、未だ治療薬については包括支払いとなっており（むしろ配給から保険収載への移行によつて施設の全額負担となり悪化している）、施設内でクラスターが生じた場合にも治療を事実上行えないという状況が続いています。引き続き現状に即した対応が早急になされることを希望いたします。

さて当院が長年力を入れている高気圧・潜水医学におきましては、長らく並存していた日本高気圧環境・潜水医学会と日本臨床高気圧酸素・潜水医学会が、今年合併することとなりました。そしてその

記念すべき第1回目の学会・第58回日本高気圧潜水医学会学術総会を私共の主催で6月28〜29日に中津で開催させていただきましたこととなりました。新型コロナウイルス感染症が5類となり、牧田総合病院の土居浩先生のもと、東京で開催された昨年の学術集会は約300人の関係者が参加し大変活発な議論が行われました。今回、

地方でしかも県庁所在地以外で行う学術総会とはなりません。アメリカの学会UHMS (Undersea & Hyperbaric Medical Society) のジョン・ピーター理事長や整形外科医で潜水高気圧医学の権威であるミッシェル・ストラウス博士等、海外からも多くのゲストにご講演頂く予定です。幕末・明治時代に蘭学・西洋医学の泉が湧いたこの中津で多分野・多職種の高圧・潜水医学関係者が集い、未来に向けて国際的な議論が活発に繰り広げられることを今から楽しみにしています。また潜水医

学専門家による海洋医療初期対応研修会も企画しています。学会員でなくても潜水に従事されている方はぜひご参加いただければと思います。皆様にとりまして素晴らしい一年になることを祈念いたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

骨髄炎治療を振り返って Part 2

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院

回復期センター長 田村 裕昭



前回に引き続き「骨髄炎治療を振り返って」のPart 2を記載させていただきます。

骨髄炎治療は当院受診以前に治療期間が長く、何度も手術を受けて来られた患者さんも多く、近隣の方々の他、遠くは北海道、鹿児島、新潟、東京、横浜、名古屋、それに韓国など、各地からおいでになっていきます。それぞれ病気への思いが深く、治療経過の中で随分悩み苦労されて来院されています。

骨髄炎の発症原因は、血液中に入った細菌が骨に達する血行性骨髄炎と、外傷受傷時に骨が皮膚を破って露出した開放骨折の治療後に生じた外傷性骨髄炎があります。機械に巻き込まれたり、転落や交通事故などの高エネルギー外傷で骨が露出し、泥や砂などでの汚染が強い例や、皮膚や皮下組織などの軟部組織の損傷が強く組織の循環障害が危惧される例、骨折部が粉碎している例などでは特に注意

が必要です。残念ながら注意を払っていても通常の骨折手術後に感染してしまうこともありま

す。血行性骨髄炎は、急性骨髄炎、急性骨髄炎から移行した続発性慢性骨髄炎、最初から亜急性または慢性に発症した原発性慢性骨髄炎に分けられます。感染源としては上気道炎や中耳炎などが考えられています。急性血行性骨髄炎は小児に多く(70%以下)、長管骨の骨幹端部、特に下肢骨(大腿骨と脛骨)に多く発症します。成人では、脊椎及び骨幹部での発症が多くなっています。最近では高齢者の化膿性脊椎炎の治療機会が多くなってきました。外傷性や術後の骨髄炎は、開放創の初期治療時の感染予防処置の徹底や、術後感染への予防対策の向上などから、最近では骨髄炎の発症は随分減少傾向にあると思われま

す。しかし、一旦発症した場合

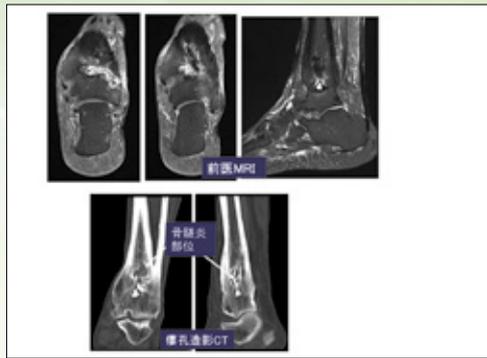
は、初期の対応がうまくいかなければ、慢性化して再発を繰り返して患者さんを苦しめ、近接関節の拘縮や患肢の短縮などの障害を残すこともあります。血行障害による足部軟部組織の壊死や、糖尿病性の足趾の難治性潰瘍や壊疽に続発する骨髄炎も高齢化社会に伴って増加してきました。当院での治療成績について紹介しますが、1981年開院から2017年までの、骨髄炎治療の全症例は757例で、そのうち大腿骨や脛骨、上腕骨などの長管骨骨髄炎の治療は474例で、大腿骨180例、脛骨250例でした。治療は前回説明しました高気圧酸素治療や創管理、抗菌薬使用などの保存的治療と、手術として持続洗浄療法を基本に行ってきました。約半数例では保存的治療で沈静しています。が、保存的治療で改善しなかった220例(44.5%)には持続洗浄療法で手術を行い170例(80.5%)が治癒し、34例が改善(15.4%)、9例(4.1%)に改善が得られませんでした。

当院で主に行っている持続洗浄療法は、1970年代から本格的に本邦で報告されはじめ、病巣部を搔扱し、持続的に洗浄とドレナージをしながら、新鮮な肉芽形成を促して感染を鎮静していく治療法で、感染性偽関節などでの大きな骨欠損や一期的創閉鎖が困難な状況がない限りは、骨髄炎の手術的治療として最初に検討されてよい方法と

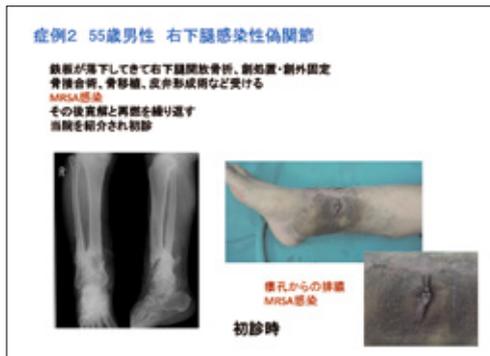
考えます。洗浄液は、1000mlの生理食塩水に感受性のある抗菌薬を混入したものと、10%ポビドンヨード液10mlを混入したものを使い、1日3000ml位(ポビドンヨード混入液2000ml、抗菌薬混入液1000ml)で洗浄し、近年は人体への悪影響のない殺菌性に優れるオゾンナノバブル水を使用しています。洗浄は7日から14日間前後行います。持続洗浄では、凝血塊や壊死物によるチューブの閉塞が問題になることがあり、理事長考案の川島式持続洗浄装置は閉塞防止を目的に3つの回路が選択できるようになっていきます。それでも閉塞して洗浄液が創部から漏れ出ることもあるので、スタッフによる回路の適切な術後管理が重要で、病棟の看護師たちの熟練した取り扱いが必要になり、閉塞防止に努めていただ

いています。治療で印象深かった患者さんを紹介すると、交通事故で足関節の開放骨折を受傷し、受傷から35年たつて足関節部から排膿するようになり、ネットでも当院のことを知って海外から来院されました。持続洗浄療法で手術し、術前術後に高気圧酸素治療を行い、幸い

症例 1



症例 2



1回の手術で治癒し帰国されました(症例1)。
 次の患者さんは、労災事故で下腿開放骨折を受傷し、その後数回の手術を受けましたが排膿が続き、受傷10年後に紹介受診されました。骨組織の状態は良くなかったのですが、2回の手術と高気圧酸素治療等で当院初診3年後に治癒になりました(症例2)。
 骨髄炎治療とは別に、骨髄炎に関連した王興義先生との日中友好の経験も印象深いものでした。
 王興義先生は河南医科大学卒業後に腹部外科を専攻していましたが、当時外科と整形外科は同じ病棟にあり、骨髄炎の患者を診て数年にわたって治療しても治癒せず、一生機能障害を残すのを見て何とかならないかと思うようになり、日本の整形外科雑誌で理事長の論文を見て、その治療成績が良いのに驚きと感動を覚え、理事長に手紙を出したのが交流の始まりです。数度の文通の後、1993年に当院に初回留学となりました。

来日後の王先生は、骨髄炎治療の勉強は勿論のこと、他の整形外科手術、病院管理や経営哲学などを最初の3か月の研修で積極的に吸収していききました。その後何度も当院での研修や日本での学会参加・発表を繰り返し、当院および日本の他の施設の医師や当院職員とも持ち前の積極性で交流も深めていきました。1997年には北京に移って北京骨髄炎医院を設立し、このころには1000例あまりの症例に持続洗浄療法を用いて治療成績を向上させ、次第に名声が高まり、テレビで何度も放映され、専門誌の表紙を飾るようになり、多くの本も執筆し、患者も中国全土から訪れるようになったようで、2008年に北京聖濟骨傷医

院を移転設立しました。来日後以来から自院の医師を次々に研修に当院へ送り交流を深め、6人の医師が派遣され、特に後継者である御子息の王偉先生は、補佐役の王軍先生と共に2005年から1年間当院で研修し、医学や経営について学ぶとともに、大いに文化交流と「飲みにケーション」？もして帰りました。当院からも、理事長が何度か職員を伴って王先生の病院を訪れており、当院で卒業後研修のため勉強中であつた医師は、単独で9日間研修に訪れる機会があり、病院見学や中国の文化・人情に触れ、またとない経験をすることができたと思います。
 私も2010年の5月に理事長たちと病院訪問しましたが、骨髄炎治療症例の多さに驚くとともに、4日間の滞在中に北京、西安や兵馬俑などを観光しながら、その間変わることにない心温まる歓待に感動を受けました。王先生の進る熱意に端を発した当院との交流は、双方の誠意溢れる対応で揺るぎない関係となり、ともすればギスギスしてきた日中関係でありますが、しっかりとした信頼関係が築かれれば国情の違いを越えて「莫逆の友」になれると

感じた次第です。
 骨髄炎の治療は種々考案されていますが、それぞれ一長一短ありますので画一に良否を論じることは困難ですが、当院としては今後も高気圧酸素治療と持続洗浄療法を柱に治療を継続していきたいと思いま





去る11月12日、中津文化会館において、中津ロータリークラブ創立70周年記念シンポジウムが開催されたことは前に述べた通りである。

中津の歴史と文化を学ぶ会顧問の本徳照光氏は、1819年、九州で最も早い時期に記録を残した村上玄水の人体解剖について話した。大分大、中津ロータリー70周年記念シンポジウム



川島 真人

名譽教授馬田達生氏は、前野良沢から福沢諭吉に至る蘭学の大きな流れの中で、解剖学の重要性を自ら感じ取った田原淳の義父・春橋が、東大卒業後の淳をドイツに私費留学させ、心臓の「刺激伝導系」を発見するというノーベル賞級の大業を果たすこ

とに繋がったと紹介。いずれも中津の先人たちのパイオニア精神をたたえた。コメンテーターを務めた長崎国際大教授の落合知子氏は、中津は残ったもの蘭学、洋学、医学に関する史料館を維持している全国的にも貴重な街であると述べた。さらにこのような歴史的特徴を活用して、地域の観光に学術歴史観光都市として生かしてはどうかと提案された。

（川島整形外科病院理事長・中津市）



去る12日、中津文化会館において、中津ロータリークラブ創立70周年記念シンポジウムが開催された。主催者は中津ロータリークラブ（細川唯会長）で、実行委員長は筆者であった。

吉蘭学 最後の福沢



川島 真人

今回は2019年の新型コロナウィルス感染症のまん延に伴うパンデミック（世界的大流行）やウクライナ戦争など、考えてもいなかったような事態が起きている激動の時代に、これから「次の世代を背負ってゆく若い世代の命輝く人材をどのように育成してゆか」というのがテーマであった。そのために、幕末から明治にかけて激動の時代を生きてきた福沢諭吉が「最後の蘭学者」といわれていること

を検証し、前野良沢から福沢諭吉、田原淳に至る中津が生んだ偉大な先人に学ぶということで企画を組み立てた。まずは特別講演者として、東洋大文学部の岩下哲典教授に「三津同盟を基礎に『福沢諭吉と蘭学・洋学』の題でお話をしていたいだいた。

（川島整形外科病院理事長・中津市）

大分合同新聞 2023年（令和5年）11月30日（木曜日）

大分合同新聞 2023年（令和5年）12月28日（木曜日）

当法人の訪問看護ステーション・訪問リハビリテーション科の紹介

在宅事業部 主任 中野 達也



訪問看護や訪問リハビリという言葉は皆様にもだいぶ浸透してきたのではないでしょうが、当法人でも、自宅での療養生活を看護師やリハビリ

スタッフをサポートする事業を展開しています。訪問看護ステーションには5名の経験豊かな看護師と、5名のゆかいなりハビリ

スタッフが在籍しています。また、訪問リハビリ



当事業所は、小児から高齢者と幅広い年齢層の方が利用しています。また、整形外科疾患だけでなく、神経疾患や呼吸器疾患等の内科疾患を思われている方、医療機関等から退院し自宅での療養生活に不安を感じている方なども利用しています。

看護師の訪問では病状の確認や点滴、医療機器の管理など、健康上の問題や生活上の障害のある方々に対し、専門的なケアを提供しています。また、訪問リハビリ

学会発表を終えて

回復期リハビリテーション病棟 介護福祉士 椋谷 直美

2023年11月19日(日)、広島で開催された全日本病院学会に参加し、『回復期リハビリテーション病棟における家族援助のない患者への支援〜リサイクル活動着の無料レンタル化〜』をテーマにポスターセッションでの発表を行いました。

リハビリではFIM(機能的自立評価法)で適宜評価を行うために、「更衣」も課題の一つとなり、それも社会的に認められる日常着でなければ、評価の対象にできません。しかし、家族の協力が得られず服を準備できない患者も



増加傾向にある為、この問題に対して看護補助者と看護師のチームで取り組みました。

SDGsの観点からのリサイクル活動着の無料レンタルを行う事とし、職員に呼び掛け収集し、性別、サイズ、季節毎に分別しました。レンタルを開始したところ、退院時に持つて帰ってしまう事例



が多発した為、紛失防止の為にレンタル方法のシステム化を考察しました。結果、患者の好みに合わせ、スムーズに無料レンタルの



活用が可能となり、FIMの評価も問題なく遂行されているという内容です。ポスター発表の時、前を歩くほとんどの人が足を止めて閲覧してくださり、多くの方に興味を持っていただけてとても嬉しく、感動しました。

患者さんやご家族からは感謝の言葉をいただき、皆でこの取り組みを行って本当に良かったと感じます。自利他たの精神で患者さんに寄り添うことの大切さを再認識しました。学会発表に参加させていただき、多くの学びと刺激を得る事が出来たことに感謝です。ありがとうございました。

たのしかったよ！ ハッピー・ハロウィン

むつみ園 保育士 前田 佳奈子

むつみ園は、当法人に勤務する職員の大切なお子さまをお預かりする保育施設です。子どもたちが楽しみにしている行事のひとつが10月31日のハロウィン。今年は3歳と2歳の6人がかわいいアンパンマンに変身！ママやパパ、事務局の職員さんの前でダンスを披露しました。「トリック・オア・トリート！」の台詞でたくさんのお菓子をいただき大喜びの子どもたち。楽しい一日となりました。



第38回

マンダラゲの会

社会奉仕委員会・医療事務部

松垣 夏実

2023年10月28日(土)、第38回マンダラゲの会が大江山家史料館にて開催されました。当日は天気にも恵まれ、薬草園での薬草の採種・手入れに多くの方にご参加いただきました。その後、西蓮寺にて吉富歴史文化の会の太田榮会長に『南北朝時代の豊前・中津地方』というテーマで、1350年から1352年に起こった足利直義と尊氏の幕



府内部での分裂、観応の擾乱から始まり、日本三大合戦である筑後川の合戦、1350年の吉富町の篠塚の古戦場、1337年の上毛町での柔野原の合戦、豊前国の宇都宮惣領家が南朝方として蜂起するまでを御講演していただきました。

配布された資料には講演内容に対する時代や人物の詳しい用語集があり、南北朝時代についてあまり知識のない私でもわかりやすいお話でした。また豊前・中津地方の歴史に関する子孫の方たちも御出席されており、その方々の



自見川清掃を終えて

事務局・総務部 野依 大希

2023年10月上旬に、川

嶋整形外科病院の社会奉仕活動の一つ自見川清掃が行われました。自見川清掃は春と秋の年2回行っていて、今回は

お話も聞けてより一層歴史を身近に感じることができました。マンダラゲの会を通して中津に関する歴史や貴重なお話を聞く機会をいただけたことを嬉しく思います。



秋の清掃になります。

今年は暖かい気候が続いた影響もあり、前回清掃から半年も経ってないにもかかわらず、人の胸の高さまで成長している草木もありました。美化委員会のメンバーをはじめ、業務の間に参加の手上げをしていただいた総勢30名の職員で、川の中の雑草や藻、除草作業を行いました。作業

が始まってしばらくすると、当日に急遽参加ができるようになった職員や、地域の方々も清掃作業を手伝ってくれました。

私自身、美化委員会のメンバーとして毎回自見川清掃に参加していますが、このような風景を目にすると、この活動の取り組みへの思いが地域の方々へ届いているのだと感じ、とてもうれしく思いました。



当法人におけるSDGs

社会奉仕委員会編

書き損じはがきとエコキャップの回収活動

社会奉仕委員会・高気庄治療科 副主任 宮田 健司

社会奉仕委員会はその名の通り、社会奉仕活動を目的とした委員会です。主な活動は法人内外のボランティア活動への参加、災害地域への募金の回収、そして『書き損じはがき』と『エコキャップ』の回収（すべての活動に対して全職員への周知）を行っています。

書き損じはがき回収活動とは、不要となった未投函（消印がない）且つ料額印面が確認できる官製はがきを回収する活

動のことです。主に書き損じて投函が出来なくなったはがきを回収目的とし、書き損じはがきと総称されていますが、中には未使用のまま保管されて不要となった過去の年賀はがきなども多くあります。回収した書き損じはがきは、中津ロータリークラブを通じて換金されたのちに盲導犬の育成支援活動へ寄付しており、2022年度は1550枚を回収することが出来ました。厚生労働省

の報告では2023年10月時点での盲導犬実働頭数は836頭とされていますが、盲導犬を必要としている方はおよそ3,000人もいるというデータもありました。また、盲導犬を育成するためには1頭あたり300〜500万円の費用がかかります。こ

の状況から考えると非常に微力ではありますが、書き損じはがき回収活動を通じて少しでも盲導犬の育成や普及に貢献できればと考えています。

次に、エコキャップ回収活動とはペットボトルのキャップを回収する活動のことです。20年ほど前から取り組まれるようになった活動で、それまではペットボトル本体はリサイクルされるもののペットボトルのキャップはゴミとして廃棄されていたため、回収をして資源化したのち、売り上げの一部を発展途上国へ寄付をするという「地球環境問題」資源活用「国際貢献」などを目的として始まった活動です。当法人では、廃棄物収集を委託している企業（有限会社恵上商店）が取り組む活動に参加しています。エコキャップの売り上げの一部は「認定NPO法人・世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付されたのち、国際連合児童基金（UNICEF）を通じて発展途上国の子どもたちへワクチンが届けられています。「認定NPO法人・世界の子どもにワクチンを 日本

委員会」によると発展途上国は1日におよそ4000人、時間になると20秒間に1人の赤ちゃんや子どもたちが、ワクチンがないために命を落としていくとされています。エコキャップ7kgでおよそ1人分のワクチンになるそうです。当法人が活動を開始した2022年12月〜2023年9月までに44・5kg（ワクチン約6・7人分）を回収することが出来ました。資源の無駄をなくし、1人でも多くの命を救えるよう今後もエコキャップ回収活動を継続していきたいと考えています。



書き損じはがき回収の条件

- 官製はがきであること
- 未投函である（消印がない）こと
- 料額印面が確認できること

3年10月時点での盲導犬実働頭数は836頭とされていますが、盲導犬を必要としている方はおよそ3,000人もいるというデータもありました。また、盲導犬を育成するためには1頭あたり300〜500万円の費用がかかります。この

の状況から考えると非常に微力ではありますが、書き損じはがき回収活動を通じて少しでも盲導犬の育成や普及に貢献できればと考えています。

最後に、当法人でのエコキャップ回収活動は法人内のみで活動（職員が各家庭や個人で使用したキャップを各自で責任を持って洗浄・乾燥したものを回収）しており、衛生上の観点から一般向け及び一般ゴミからは回収を行っておりません。全国的にも広く行われている活動ですので、エコキャップ回収活動をご希望の方は最寄りの団体や企業が行う活動や回収場所をご確認下さい。なお、書き損じはがきの回収は可能ですが、寄付の観点から送料等の負担は出来兼ねますので、ご了承のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



認定NPO法人・世界の子どもにワクチンを 日本委員会ホームページより

Dr.
コラム



ウイスキーの話



診療部長
佐々木 聡明

ウイスキーは飲まれるでしょうか。最近ではウイスキーブームとも言われており、一部はウイスキーはなかなか手に入りにくかったり、プレミア価格として高額になっていたりするものもあります。ウイスキーには世界五大ウイスキーとして、スコッチ、アイリッシュ、アメリカン、カナディアン、ジャパニーズがあります。どのウイスキーにもそれぞれに歴史があり、味わいにも大きな違いがあります。それになんとジャパニーズウイスキーであるサントリーの「山崎」を作る山崎蒸留所は誕生100周年に当たるそうです。飲み方も様々であり、スト

レートやロック、水割りや今はやりのハイボールなど、自分の好みやその時の気分に応じて味わうことができます。寒い時期にはホットウイスキーなんかもいいですね。コロナ禍も落ち着きを見せ、忘年会や新年会など、大人数での飲み会も開かれるようになってきました。また、コロナ禍で自粛生活している際、宅飲みもはやりをみせ、自宅で独りゆっくりと飲むという人も増えてきました。ビールや日本酒、ワイン、焼酎、泡盛等々いろいろなお酒がある中、ウイスキーを手にとって飲んでみてはいかがでしょうか。但し、くれぐれも飲み過ぎには注意しましょう。



Ohana ～お花～



花の名前：椿 時期：2月から3月位
花言葉：「控え目な素晴らしさ」、「気取らない優雅さ」

花は赤、白、ピンク、一重や八重咲きなどたくさんの種類があります。

原産は日本で、庭木や茶木として日本人に親しまれている花木です。ちなみに2月8日は椿の日で、「2」=つ・「8」=ば・だそうです。

この時期は花が少なくなるのですが、緑の葉っぱがみずみずしく、花が可憐かつ鮮やかでとても心を癒してくれます。

写真は田舎の実家で咲いた花で、花器は知人の方に作成して頂いたものです。花器の周りの飾りは秋に山にあったツルを乾燥させ、アレンジしてつくってみました。

地域医療福祉連携室 尾園 幸子

落花生収穫フェスティバル★いっぱい取れました!!

事務局では季節に応じた野菜を栽培しています。11月は落花生収穫を行いました。

人生初の落花生収穫、予想を大幅に上回る収穫量で感激!!道の駅で販売できるくらいしっかりとクオリティでした!

託児所むつみ園の児童達に収穫の喜び、収穫した物を美味しく食べる体験をしてもらう為に、心を込めて栽培しています。

収穫という体験と共に、取れたての美味しさや収穫のこの感動を、いい思い出として記憶に残して頂けたらと思います。

事務局 加藤 裕成



「新鮮膝前十字靭帯損傷に対する一次縫合術後の理学療法の小経験」

三代理学療法士発表

「神経痛性筋萎縮症を呈した患者の理学療法の小経験」

吉野理学療法士発表

2023.11.26

令和5年度 公益財団法人日本スポーツ協会 公認指導員養成講習会コーチ (大分県)

「ジュニア選手の指導実習」、「発育発達期の子供への指導」(障害予防・水分補給)

奥村リハビリテーション部統括科長講演

院内勉強会

モーニングセミナー

2023.9.15

「半年間を振り返って」

須賀医師

2023.10.20

「二豊高齢者骨折フォーラムの現在」

永芳クリニック所長

2023.11.24

「最近の関節リウマチ治療について-JAK阻害剤など」

川島院長

カワシマハンドセラピィ研究会

2023.9.11

「症例報告」

奥貞作業療法士・加藤作業療法士

「上肢のテーピング」

中埜作業療法士

2023.10.16

「症例報告」

永田作業療法士・中埜作業療法士

「更年期と手指の変性疾患」

石井作業療法士

2023.11.20

「症例報告」

奥貞作業療法士・加藤作業療法士

「クリニカルパスとプロトコル(橈骨遠位端骨折・KING)」

杉木リハビリテーション部部長代理

川島肩をカタらう会

2023.9.25

「肩こりについて」

尾道理学療法士

2023.10.30

「変形性肩関節症に対し人工骨頭置換術を施行した症例を経験して」

牟田口理学療法士

2023.11.27

「肩関節の解剖(腱板を中心に)」

佐々木診療部長

院外発表・講演

2023.9.9

九州麻酔科学会第61回大会 (福岡県)

「当院における高齢大腿骨インプラント周囲骨折患者に対する周術期管理と経過」

豊田医師発表

2023.9.14

令和5年度 運動で健康づくり推進員養成講座「元気ハツラツ教室」 (中津市)

「運動障害とその予防」

奥村リハビリテーション部統括科長講演

2023.9.22-23

第57回日本高気圧環境・潜水医学会 (東京都)

「外傷後Aeromonas hydrophila感染に対する高気圧酸素治療」

山口高気圧治療科統括科長発表

2023.9.24

World Expand ホールディングス(株)バイオメカニクスと関節構造(PART2) (Web)

「股関節と理学療法」

奥村リハビリテーション部統括科長講演

2023.10.13-15

第11回日本運動器理学療法学会学術大会 (福岡県)

「口述6(一般演題)股関節2」

奥村リハビリテーション部統括科長座長

「半月板損傷患者における歩行時の下肢の捻じれと骨盤・体幹回旋の関連性について」

羽田清貴リハビリテーション部主任発表

「膝関節のlateral thrust判定における歩行観察と慣性センサーの整合性と関連する下肢アライメントの検討」

辛嶋良介リハビリテーション部副主任発表

「腰椎化膿性椎間板炎を呈した症例-二次的障害予防に着目して-」

羽田見奈理学療法士発表

2023.10.13-15

第64回全日本病院学会 in広島 (広島県)

「コロナ禍における新たな家屋調査方法の取り組み」

山本理学療法士発表

2023.10.15

生活行為向上マネジメント書き方研修会 (大分県)

「通所C型利用者に対しMTDLPを活用し、3か月で生活改善が図れた一例」

濱砂通所リハビリテーション科作業療法士発表

2023.11.10-12

第57回日本作業療法学会 (沖縄県)

「通所リハ利用者における移動能力と手段的日常生活の関連性について」

辛嶋睦子通所リハビリテーション科作業療法士発表

2023.11.24-25

九州理学療法士学術大会2023 in熊本 (熊本県)

「重度拘縮肩に対する理学療法での肩関節機能の改善状況」

辛嶋良介リハビリテーション部副主任発表

「エコーによる動態を考慮した理学療法が奏功した下肢多発骨折術後の一症例」

橋本裕司理学療法士発表

水滴塾

第1回 2023年11月10日(金)

- クリニクリハビリ 合津卓朗
「致知 2022年3月号 福地茂雄氏 巻頭の言葉より」
- ひだまり 浦岡由布子
「致知 2022年1月号 松下幸之助と稲盛和夫の生き方に学ぶより」
「致知 2022年1月号 ドラッカー学会理事 佐藤等氏の連載記事より」
- 介護保険サービスセンター 小野英樹
「致知 2021年8月号 内藤多四郎氏の語り“父・内藤多仲の生き方”より」
- クリニクリハビリ 羽田清貴
「致知 2021年4月号 稲盛和夫に学ぶ人間学より」
- クリニクリハビリ 石井 瑛
「廣池千九郎について」
- 企画情報部 清成洋一郎
「ChatGPTとは」
- 栄養管理科 齋藤潤哉
「栄養と免疫力について」
- 看護部 藤沢貴美子
「フローレンス・ナイチンゲールについて」

膝関節勉強会

- 2023.9.13
「歩行時の矢状面での膝関節運動と治療の工夫」
奥村リハビリテーション部統括科長
- 2023.10.11
「膝関節の痛み～軟部組織を中心に～」
河内理学療法士
- 2023.11.8
「防御性収縮について」
豊田理学療法士

看護部勉強会

- 2023.9.4
重症度、医療・看護必要度研修
- 2023.9.19
看護補助者勉強会
- 2023.10.19・26・30
実習指導者学習会②
- 2023.11.6
看護補助者の活用に関する看護職員の研修
- 2023.11.9・16
実習指導者学習会③

医局抄読会

第1、2、4火曜日の朝7時45分スタート

2023.9.5

橈骨遠位端骨折においてX線の臨床結果との間の関係
後藤診療副部長

2023.9.26

初発の足関節外側捻挫後に慢性足関節不安定症となるリスク因子
須賀医師

2023.10.3

2005年から2021年にかけて小児ACL再建術件数の大幅な増加 ノルウェー膝靭帯登録からの研究
本山副院長

2023.10.10

小児四肢骨折の再骨折率
古江副院長

2023.11.14

大腿骨頭壊死におけるエビデンスに裏付けられたHBO療法：系統的レビューとメタアナリシス
川島院長

2023.11.28

転位のある股関節の関節内骨折に対する人工骨頭置換術でのセメントの使用対非使用
佐々木診療部長

論文(共同含)・誌上発表

- 橋本直樹：コロナ禍による面会制限に対して動画での情報提供システムの構築に向けた取り組み，全日本病院協会雑誌，34(1)：187-191，2023

第41回 玄真堂友の会のお知らせ

テーマ 「腸活!! ～しっかり噛んで丈夫な骨と脳を作ろう～」

●開催日：2024年3月30日(土) 13:00~16:00

●場 所：川島整形外科病院 1F 玄真堂ホール

講演 講師：院 長 川島 眞之

講演 講師：管理栄養士 齊藤 潤哉

友の会会員以外の方も入場無料です。

ケーナ演奏などによるオープニングや健康クイズ等、盛り沢山な内容となっております。

皆様お誘い合わせの上、ぜひお越し下さい。



玄真堂友の会 新規会員募集中!

生き生きとした健康ライフが
みなさまを待っています!

玄真堂友の会について

玄真堂友の会は、川島整形外科病院を中心に患者様をはじめ、地域住民の皆様と共に健康についての正しい知識や病気の予防法・最新の治療法などの情報提供を行ってゆきます。病に悩む方も健康な方も長寿国日本における生き生きとした人生をお送り頂く為の交流の場になれば幸いです。

是非皆様のご入会をお待ち致しております。

理事長 川島 眞人

会員
特典

会員様へ様々な特典をご用意されています

- ①高圧酸素健康増進コース 10%OFF
- ②健康増進特別検診外来 10%OFF
- ③玄真堂情報誌の送付

入会
方法

お近くの職員に声をお掛け下さい。

入会金なし/年会費 2,000円

お問い合わせ

〒871-0012 大分県中津市宮夫17
川島整形外科病院 玄真堂友の会 事務局
TEL:0979 (24) 0464 FAX:0979 (24) 6258

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
いつもラ・サントのご愛読ありがとうございます。
本年も皆様に読みやすく、多様な情報をお届けできるよう
広報委員一同頑張りたいと思います。
まだまだ寒い日が続きますがご身体ご自愛くださいませ。
本年もよろしくお願いたします。

Y・M

【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

[患者様の権利]

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7. プライバシーや個人情報を保護される権利があります。
8. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9. 安全を確保される権利があります。

[患者様の責務]

1. 医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2. 他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4. 円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5. 早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6. 診療費の遅滞ない支払い